



英語上達のための ステップ°・バイ・ステップ°

楽しみながら学ぶ英語

Yuki Eigo

英語をあきらめた人へ

英語話せますか？とまわりの人に尋ねてみると多くの人は無理無理とか果てはトラウマがで
きちゃってて、など、なんとも後ろ向きな答えが返ってくる。少なくとも中学3年間は、義務教育
であり、血税を投資していただいて勉強したにもかかわらずである。

と偉そうな書き出しとなってしまいましたが、かく言う私も高校を卒業したときには、まったく
英語が口から出てこなかったのです。それがふとしたきっかけで外国の方と気持ちをシェアで
きる程度には話しをできるようになったのです。でも、その道中では、浮いたり沈んだり紆余曲
折がありました。

本書では、そんな筆者の英語学習膝栗毛をまとめてみました。

岩国基地フレンドシップデー

英語を話す挑戦の最初のほろ苦い経験でした。

もうかれこれ20年以上も前になるのですが、
高校を卒業し、とある中国地方の大学に入学した私は、
人並みに何かサークルに入った方がいいかなと考えていました。
高校のとき比較的点数のよかった英語を使えるように
なればいいなと漠然と考え、どこの大学にもあるような
春先の大学構内のメインストリートでの勧誘に乗り、ESSという英語の
サークルの門をたたいた。
入部してしばらくしたある日、サークルの部室にしてみると、「岩国基地ツアー募集」の文字
。
岩国基地が米軍基地ということもそのときまで意識したことがなかったのですが、
なにか英語を話すチャンスなのだろうと参加を希望した。

結論から言います。

その日、一語も英語を口から出せませんでした。

中津燎子先生との出会い

中津燎子先生は、1974年に「なんで英語やるの？」を出版されて以来、私塾活動を中心に英語教育に一生を捧げられた方で、残念ながら昨年亡くられました。ご冥福をお祈りします。

私が、中津先生とお会いしたのは、ESS活動を1年くらい経た1986年の音声学の講義においてでした。講義の本来のご担当は、別の先生だったのですが、その先生の講義内容が、中津式の英語の発音トレーニングを実践してみるという興味深い企画であったわけです。

系統立ったトレーニングの解説については、先生の書籍を見ていただくとして、ここでは、私にとって刺激的だった点を3点取り上げてみます。

- ①アルファベットの発音には、英語の発音のすべてが詰まっている。
- ②英語は声と息が同時に出る。
- ③ひとそれぞれ個性があり、それぞれの考えを創造し、そして伝えることが言語習得において大切。

実は、これらのトレーニングをマスターできればよかったのですが、

①②については、それなりに修行を積み上げたものの、③は未開発に近いまま残してしまいました。

これがこのときの失敗です。

英語らしい音声を身につけて、自己主張の役に立てることが目的であったにもかかわらず、目的を失っていた。

第4章 深は新なり

本章のタイトルは、「深は新なり」としてみました。
もしこの言葉でピンと来たという方がいらっしゃいましたら
この本はこのあたりで、またご自分の成長の世界にお戻りください。

なつかしい英語のテキストで、昔、「単語レモン」という単語集がありました。すでに絶版なのか、インターネットで検索しても、新品はなさそうですが、中古品の書評やブログ記事（たとえば、下記URL）はありそうです。探して見てください。

http://nanzo.blog.ocn.ne.jp/nanzo/2008/06/post_76be.html

今のようにPC、さらにはスマホにより情報へのアクセスが自由な時代にあっては、紙媒体のテキストなど古臭く思われるかもしれませんが、今読んでも、この本には、英単語を覚えるという切り口で人間の記憶というものに挑んだ熱き心が感じられます。

このようなすばらしい本にめぐり合いながら、自分を磨ききれなかったのは、本当に心残りです。

現在販売されている語学のテキストに、直感的にピンとくるものがあれば、それはあなたにピッタリの本なのかもしれません。

本との邂逅を大切にしてください！

人生は「今」から。

過去という土台の上に今の自分がのっかているのは間違いない。

でも、だからといって過去に縛られている必要はない。

今、そして1秒後、1分後、1年後の輝かしい未来こそがあなたのものなのである。

あの岩国基地での失敗は本当に心に残るものであったが、それが、動き出すことを躊躇している今の自分を愛おしく後押ししてくれると思うと、若かった自分とあのときの参加メンバーに

感謝の念を禁じえない。

英語上達のためのステップ・バイ・ステップ

<http://p.booklog.jp/book/45585>

著者 : Yuki Eigo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yuukinougyou123/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45585>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/45585>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.